

ウィットとエレガンスに満ちた暗黒街のドラマ。ビッグ・スケールと
ユニークなビジュアル・スタイル、アル・パチーノ、ダスティン・ホフマン、
そしてノックアウト マドンナ…すごい出来。

—タイム誌—



ディープ トレイシー



ディック・トレイシー

PICK TRACY

TOUCHSTONE PICTURES
© TOUCHSTONE PICTURES

これがファンタスティック・エンターテインメント！ 全米は、いまD・T(ディック・トレイシー)現象！！

90年夏、全米の話題はレインコートにソフト帽をキメたダンディな刑事の映画に独占された。その映画は「ディック・トレイシー」。製作、監督を務め、主役の刑事トレイシーを演じるのは、「俺たちに明日はない」でアメリカ映画に革命を起こし、「レッズ」でアカデミー賞を獲得したハリウッドのスーパースター、ウォレン・ベイティだ。10年間この企画を温めてきた彼が、妥協を許さない映画作りで全く新しいタイプの完璧なエンターテインメントを生み出したのだ。だから、よくある刑事モノと思ったら大まちがい。パイオレンス・シーンの多いアクション映画を期待すると、あっさり肩透かしを食い、全くもって幸福な裏切りに出会うことになる。もちろん、派手なアクション・シーンはふんだんにあるけれど、血は一滴も流れない。ブロードウェイ・ミュージカルの名手、スティーブン・ストロ



(スタッフ)

製作・監督 ウォレン・ベイティ
脚本 ジム・キャッシュ
原作 ジャック・エプス、J.R. チェスター・グールド
製作総指揮 バリー・M・オズボーン
..... アート・リンソン
..... フロイド・マトルックス
撮影 ビットリオ・ストラーロ AIC-A.S.C.
プロダクション・デザイナー リチャード・シルバート
編集 リチャード・マルクス
衣装デザイン ミレナ・キャノネロ
音楽 ダニー・エルフマン
特殊メイクアップ ジョン・キャグリオネ、J.R. ダグ・ドレクスラー

ハイムの曲に乗って展開する華麗なアクションは、まるで軽快なタップダンスを見ているようだ。また、原作になっているコミックスのイメージを再現した原色の画面には、絵本をめくる様な楽しさがある。“動くポップアート”“まるでアンディ・ウォーホル”と大評判になった。そして、職務にはどこまでも勇猛果敢なくせに、女性の前ではとてもシャイで、どこか孤独な影を持つトレイシーが、人間味あふれる魅力的なキャラクターとして描かれている。孤独な男トレイシーは、みなし児キッドと出会い、実の親子以上の愛情で結ばれていき、共に悪と闘っていく。キッドとのふれ合いの中で、トレイシーは巨悪に立ち向かう勇氣以外に、“恋人にプロポーズする勇氣”に目覚めていく。果たして、トレイシーとキッドは、街をギャングから救えるだろうか。そして、トレイシーは恋人にプロポーズ出来るだろうか。

大人から子供まで熱狂させた異色のアクション映画「ディック・トレイシー」は、まるでデズニール・ランドの様な楽しさにあふれている。91年正月映画はこれでキマリノ

91年のトレンド ディック・トレイシー

ディック・トレイシー——コミックス作家チェスター・グールドの手により1931年10月4日に“デトロイト・ミラー”紙に登場して以来、現在に至るまで50年間に上連載され220紙に渡って掲載されたアメリカン・コミックスの伝説の刑事。彼は超能者でもなければ、特殊な武器を持つわけでもない。あるのは燃える正義感と明晰な頭脳、果敢な行動力のみ。生身の刑事が、街にはびこる個性的なギャング達を相手に繰り広げる人間臭いファイトに読者の支持が集まり、たちまち全米のヒーローに。その人気ぶりは、過去何度も映画化、TV化されていることからもうかがえるが、今回は多分に90年代の魅力を加味して登場する。トラディショナルでトレンド、それが「ディック・トレイシー」だ。



映画史上最高——！！ 超豪華スターがゾクゾク登場

豪華スターの競演も、この映画の大きな魅力の一つ。主役トレイシーにウォレン・ベイティ。トレイシーのライバルであるギャング団の帝王には、「ゴッドファーザー」シリーズのアル・パチーノ。シリアスな演技に定評のある彼が初めて見るコメディ・センスの爆発が、映画をますます楽しくした。妖しい悪女の魅力でトレイシーを誘惑するナイトクラブのシンガーに、世界のトップアーティスト、マドンナ。歌い踊る彼女の悩殺演技は必見もの。そして極めつけは、「レインマン」のダスティン・ホフマン。名優の名を欲しきままにする彼が、役立たずのおかしな情報屋として登場。達者な演技で笑いを誘う。

こうした有名スター達にフレッシュな魅力で対抗するのが、トレイシーの美しい恋人役を演じるグレン・ヘッドリー。そして、トレイシーと実の親子以上の愛情で結ばれ、共に悪と闘うみなし児キッド役のチャーリー・コースモ。この映画のマスコットとも言える彼の存在が映画に厚みを加えた。他にも映画、舞台の主役級スターが次々と出演。これだけのキャスティングは二度と実現しないだろう。

(キャスト)

ディック・トレイシー ウォレン・ベイティ
キッド チャーリー・コースモ
フラットトップ ウィリアム・フォーサイス
サム・トゥルーハート グレン・ヘッドリー
サム・カッフェム セイモア・カッセル
バット・バットン ジェームズ・キン
ブランドン チャールズ・ダーニング
プレスレス・マホニー マドンナ
88キーズ マンディ・パティンキン
リップス・マリリス ボール・ソルビノ
ビッグ・ボーイ・キャプリス アル・パチーノ
マンブルス ダスティン・ホフマン
O.A. フレッシュャー ディック・バン・ダイク
ミセス・トゥルーハート エスカル・パーソンズ
(登場順)



12月14日(金)正月第1弾ロードショー

特別鑑賞券発売中！(一般¥1300/学生¥1100/ペア券¥2300)

有楽町マリオン前

ニュー東宝シネマ1

03
(571)
1947